

伊藤恵康(監修)／齋藤正史・岩部昌平・宮本 梓(編集)

リハビリテーションスタッフのための整形外科手術動画集(DVD 付) 一歩進んだ術後リハのために

評者 村木孝行

東北大学病院リハビリテーション部

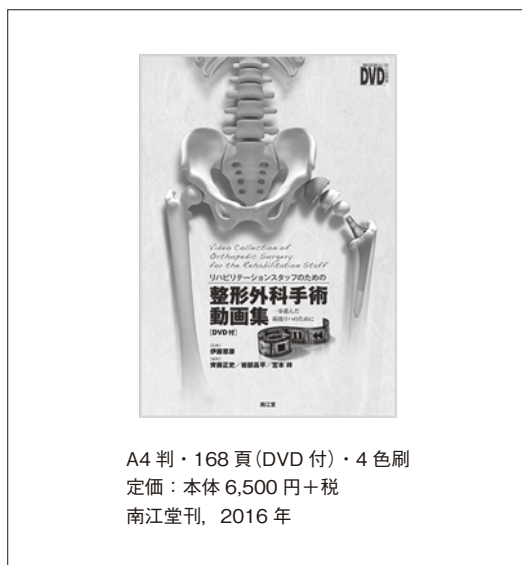
「手術ではしっかり損傷部を修復できて、これくらい動いていたから、ちゃんと関節は動くようになるだろう」という術者である整形外科医の期待と、「術後になぜこの部位にこのような痛みが出るのか? なぜ思うように動かせないのか?」という理学療法士の疑問や不安。臨床現場で日常的に交錯する想いである。これらの想いを達成させる、または解決する糸口の1つは、間違いなく術者と理学療法士が手術とその後のリハビリテーションに対する共通理解をもつことである。

手術の内容について詳しく学ぶことは現在の卒前教育では難しい。20年近く前になるが、筆者が臨床実習の際に最初に担当した整形外科手術症例は、変形性股関節症に対して骨切り術を行った症例であった。カルテや手術記録を見ても知らない用語ばかりであり、筋がどのように侵襲・縫着され、関節がどのように形成されたのか想像するのに苦労した。

われわれ理学療法士は、皮膚の中にある関節組織や筋がどのような状態になっているか直接見ることはできない。CTやMRI、超音波などの画像診断技術の発展により、皮下組織を観察・評価できる可能性は飛躍的に高くなったとはいえ、手術を直接見るのと同等の情報を得ることはできない。それだけでなく、術者がどのような理由や意図でその術式や処置、アプローチを選択しているのかを知ることが、術後理学療法を進めるうえでは重要である。以前より手術手技に関する整形外科医向けの書籍は増えてきているが、コメディカルにとってはやや専門的であったり、知りたい情報が割愛されていたりする。

本書は書名を「リハビリテーションスタッフのための」と題し、コメディカルに必要な情報にこだわっている点から、編集にかかわられた1人である理学療法士の宮本梓先生の整形外科術後リハビリテーションに関する熱い想いを感じることができ

る。執筆をされた整形外科医の先生方からは、手術動画を用いた手技解説だけでなく、コメディカルが不安や疑問を感じている点に対する情報や回答を提供していただいている。本書の監修をされた伊藤恵康先生が、「クリティカルパスのとおり画一的なリハビリテーションでは、TVコマーシャルのマッサージチェアとは大差はない」と序文で叱咤激励を込めて述べられているのは、われわれに対する期待の表れである。個々の整形外科術後症例の状態を詳細に把握し、より良いチーム医療を提供するために本書は必読の一書といえる。



A4判・168頁(DVD付)・4色刷
定価：本体 6,500 円＋税
南江堂刊、2016 年